

新時代における中国国家図書館の発展

中国国家図書館 副館長
張 志清

中国国家図書館と日本国立国会図書館は、長期にわたって友好的かつ緊密な協力関係を維持してきました。本日、当館において両図書館の第 35 回業務交流を実施することとなりました。両図書館の第 35 回業務交流が有意義なものになりますよう祈念いたします。それでは、日本国立国会図書館の皆様方にこの一年間の当館事業の進展状況と今後の目標および方向性を簡単にご紹介いたします。

一、2016 年の国家図書館の事業の進展状況

2016 年は、中国の国民経済社会発展「第 13 次五ヵ年計画」の開始年です。当館が担当する中華古典籍保護計画、民国時期文献保護計画、国家文献戦略保存庫設置計画など、多くの重点事業が国家の「第 13 次五ヵ年計画」時期の重点文化プロジェクトに組み込まれ、また、10 余りの事業が国家の「第 13 次五ヵ年計画」の重点目標と密接に関わっています。国家レベルの事業に取り組むこととなるこの重要な時期にあたり、国家図書館は、文化を継承して情報サービスを提供する機関として、2016 年を「イノベーションと発展の年」と位置付けました。イノベーション、協調、環境への配慮、開放、共有といった発展の理念を各事業に落とし込み、図書館事業の発展において十分な成果が得られるように努めてきました。

インフラ条件を大幅に向上させ、事業構造を全面的に最適化しました。

本館南区の改修工事、総合サービス棟の新築、国家図書館芸術センターの建設など、三大プロジェクトの完成により、建物面積が 28 万 m² まで拡大したことを受け、国家文献戦略保存庫プロジェクトの立ち上げが国務院によって承認されました。建設用地取得の協定は既に締結され、工事設計の入札業務も始まりました。同プロジェクトの実施により、国家戦略文献の永久保存を保証し、国家レベルでの重要文献資源の包括的保存を段階的に実現することが可能となりますし、また、「第 13 次五ヵ年計画」および「第 14 次五ヵ年計画」の期間に、地域または専門分野の文献保存書庫の建設を進めるうえで参考となるモデルを示すこととなります。そして、最終的に、多層分散型、共同構築・利用型の大規模な国家文献戦略保存体系を構築するための基礎を築くことにもなります。本館、古典籍館、文献保存庫の 3 施設が互いに機能を補完しあい、緊密に連携するという業務構造が、今後さらに明確化され、完成度が高まるでしょう。

国家文献情報資源総書庫および総目録の構築が大いに進展しました。

『永楽大典』、『佛説弥勒上生経』などの重要な文献史料が収蔵されたことにより、当館の貴重書がさらに充実しました。デジタル資源やインターネット資料、口述史料の収集などを通じ、デジタル資源の構築を順次進めてきたことで、2016年9月現在、当館が所蔵する文献資源は、全体で3,600万冊/件近くに達し、デジタル資源データの総量は1,251TBを超えています。また、国家の戦略的に重要な文献を長期的にかつ安全に保存するという理念に立脚し、国家文献戦略保存庫プロジェクトの立案を推進してきました。

優れた文献や典籍の整理・保護・出版において著しい成果を挙げました。

『中華優秀伝統文化百部経典』の編纂事業を開始し、最初の12部の収録タイトルが確定しました。こうして、古代典籍文化の内包を示し、現代中国の価値観を広く伝えることができるとなりました。また、審査を実施して5シリーズ計12,000部余りの古典籍を『国家貴重古典籍目録』に収録し、等級に応じた管理と保護を実現しました。さらに、「中華古典籍データベース」を構築し、「海外中華古典籍調査およびデジタル化協力プロジェクト」を展開し、海外に存在する中国の貴重書・文献の調査、デジタルデータ形式での中国への返還および編纂・出版事業などを推進し、フランス国立図書館からは『円明園四十景図』、イギリスオックスフォード大学ボドリアン図書館からは19冊の『永楽大典』のデジタルデータの寄贈を受けました。また、新世代運搬ロケット「長征7号」による初の搭載飛行計画に参画し、当館所蔵の優れた伝統文化を代表する典籍を宇宙ロケットに載せて打ち上げることに成功しました。

国家レベルの公共文化サービス拠点としての役割が益々向上しました。

利用料金を減免し、入館者の年齢制限を緩和し、時間を問わず気軽に利用できるサービスを実現するなど、公益サービスの範囲をさらに拡大しました。国家典籍博物館は、開館以来、のべ75回もの大型企画展を開催し、そのうち、全国巡回展はのべ57回、のべ200万人近い観覧者を動員しており、優れた伝統文化が一般公衆の日常生活を豊かにすることに大いに貢献しています。国家レベルのオープンアクセス講座のプラットフォームである「国家図書館公開講座」は、インターネット上に公開されてから、一般公衆向けに900を超える良質な講座を提供しており、総アクセス数は800万回を超えています。社会教育機関としての機能も積極的に拡充しており、年間を実施する展示会、講座、研修、芸術教育活動は800回近くに達し、見学者・参加者数はのべ100万人以上になります。文津講壇（訳者注：古典籍館で開催している市民講座）、文津図書賞（訳者注：国家図書館が行う良書表彰活動）など、閲覧サービス提供機関としてのブランドが及ぼす社会的影響力は絶えず拡大しています。また、少年児童図書館の移転拡張工事の完成により、特定の利用者層を対象とするサービスがさらに充実しました。インターネットサービスを最適化し、デジタル図書館モバイル閲覧プラットフォームを公開してからは、デジタル図書館サービスの魅力がさらに増し、サイトの年間アクセス数は14億回を超えています。

立法・政策決定、イノベーション・起業を見据えたサービス力が著しく向上しました。

国家図書館中国辺境文献研究センターの建設に注力し、当館に収蔵されている国境地帯や沿海領土に関する文献の調査研究事業を全面的に展開し、国防外交に積極的に貢献しています。また、部レベルの指導者・幹部を対象とした歴史文化講座を実施し、講座の動画データベース構築を開始し、講座管理の標準化を進めています。また、省庁分館の設立を続けていますが、16番目の省庁分館である最高人民法院分館は、四階級の全人民法院組織に向けた垂直サービスを実現し、全国をサービス対象とする初の省庁分館となります。国家の重大戦略分野および重点プロジェクトをフォローする必要性から、教育分野・科学研究分野・企業のユーザーを対象としたサービスを強化し、国家図書館科学評価センターの設立計画を進めています。

重点文化プロジェクトを着実に推進しました。

デジタル図書館推進プロジェクトの実施により、各地でデジタル図書館の構築が進み、サービスレベルも大幅に高まりました。省・市レベルの511の図書館がデジタル資源の共同構築を展開し、全国のデータ総量10,100TB、实名登録利用者数750万人を超え、各サービスシステムにおける質問クリック回数も年間平均でのべ12億回を突破したほか、デジタル図書館の関係者のべ15万人に対し研修を実施しました。また、さらに注力して中華古典籍保護計画および民国時期文献保護計画を推進しており、古典籍全面調査プラットフォームの登録データ数は130万件近くにのぼります。全国に12の「国家古典籍保護人材育成拠点」と21の国家レベルの古典籍修復技術訓練所を設置し、チベット自治区チベット語古典籍修復センターを設立しており、少数民族の古典籍文献保護事業はいつもの成果を収めています。また、民国時期文献共同目録システムを構築しており、アップロードされた書誌データは30万件、所蔵データは66万件に達しています。「民国時期文献の脱酸研究と脱酸設備の開発」も段階的に成果をあげています。

業界の牽引役としての役割を存分に発揮しました。

全国図書館発展研究センターとしての役割を積極的に果たすべく、図書館事業と公共文化事業の発展に係る重要業務、制度、政策の問題について調査研究を行い、各レベルの政府文化主管部門における意思決定や各レベルの図書館の革新的発展のために参考情報を提供しています。また、『公共図書館法』、公共図書館評価基準、公共図書館業務規範、公共デジタル文化管理法など、多くの政策文書の起草に携わり、100項目以上の標準規範を策定し、常に図書館分野の標準規範体系の充実を図っています。そして、全国書誌センターとしての機能を積極的に果たすべく、全国規模の目録編纂を進めており、全国図書館共同目録作成システムに加盟する図書館数は2,150館、書誌データの総量は1,336万件以上にのぼり、年間平均でのべ670万件以上のデータがダウンロードされています。

二、国家図書館の今後の発展の方向性

社会が発展し、小康社会（訳者注：ある程度ゆとりのある社会）の構築戦略が全面的に実施

されるにつれて、図書館事業は国家による文化事業の重要な構成要素として益々多くの政策的な支援を受け、経費が投入されるようになりました。また、文化関連の製品やサービスに対する社会公衆のニーズも益々高まっています。経済社会発展の新動向や新しい情報サービスに対する人々のニーズに積極的に対応すべく、中国国家図書館は、今後数年、以下の方向性でさらに努力していきます。

1. 国家文献情報資源総書庫の構築を進め、文献情報資源の保障をより確実なものにします。

ネットワーク情報リソースと「生きている記憶資源」（訳者注：現在も継承されている伝統的な技術や風習など）の収集と保存をさらに推進し、実物資料とデジタル資源・インターネット資料を十分に融合させた現代的な蔵書体系の構築を促進し、国家の経済・社会の革新的発展および政治・外交に関係する文献へのサポートや保障をさらに強化します。また、国家文献戦略保存庫の建設を機に、国家文献情報資源総書庫のハード面での保障レベルを確実に高めていきます。

2. 国家文献情報資源総目録の構築を強化し、知識の関連付けによる資源の統合的な利用を推進します。

所蔵する文献情報資源の目録体系を最適化し、デジタル資源・インターネット資料など新しいタイプの文献情報資源の目録作成と統合を強化し、あらゆる種別の文献情報資源の書誌記録がカバーされるようにしていきます。全国図書館総合蔵書目録の構築体制を整備し、全国図書館文献情報資源の統一的な検索、整理、提供を実現し、国家文献目録の構築を全面的に推進し、現代のネットワーク環境における国家文献目録ポータルシステムのサービス機能を深化・拡充していきます。国際的な目録作成の理論、方法、技術の発達や変化を確実にフォローし、RDAなどの国際的な目録作成規則の研究と応用を進め、Linked Data 技術の研究とデータ登録プラットフォームの構築を実施し、図書館の書誌データのオープン化と双方向化を進めます。

図書館所蔵資源のメタデータの全面的な統合方法を検討・策定し、各種文献情報資源の統一検索、関連表示、有効利用を促進します。知識構成と検索技術に関するフォローアップ型研究を展開し、コンテンツに基づく立体的・多元的な知識ネットワークの構築を推進し、文献情報サービスを単なる文献の表示や展開から、コンテンツや知識に基づくより深みのあるサービスへと転換させていきます。

3. 文献の保存・保護を強化し、所蔵資料の価値を発掘します。

国家図書館国家文献戦略保存庫の建設を全面的に推進し、本館・古典籍館・戦略保存庫の分業体制および役割と機能を科学的に明確にした上で、国家文献資源総書庫の各種文献資源を遠隔地で戦略的に保存し、災害に備えて所蔵デジタル資源を遠隔地でバックアップ、長期保存することの必要性を十分に考慮し、世界の先進的な管理モデルと技術経験に学び、構造が合理的で機能の整った、省エネルギー・高効率な戦略保存庫の建設計画を進めます。国家文献戦略保存庫の建設は、各地域・各分野の文献保存庫の建設を進める上で参考となるモデルを示すこ

とになり、大規模な多層分散型の、共同構築・利用型の大規模な国家文献戦略保存体系を確立するための基礎を築くことにつながります。そうすることで、国家戦略文献の永久保存と国家レベルの重要文献資源の包括的な保存と管理を保証し、中国の図書館事業の長期発展を保証することにつながります。

文献の収蔵、保護、整理、開発・利用における国家図書館の強みを融合し、様々な革新的手段を講じていきます。古典籍の修復や石碑の拓本などの伝統工芸の継承を強化し、古典籍の原裝保存を実現する一方で、引き続き古典籍文献の整理、開発、利用を強化し、古典籍コンテンツの再現性を確保する形での保存を実現し、優れた伝統文化の発掘・展示、保護・啓発、伝播・普及と融合的発展を全面的に推し進めます。

4. 専門能力の育成を強化し、国の立法・政策決定および科学技術のイノベーションのために「英知」を提供します。

国家の立法・政策決定に係る文献の提供能力、サービス能力、研究能力を全面的に向上させます。そして、国家図書館科学評価センターの名のもと、経済モデルの転換的發展を推し進め、中国を世界的な科学技術強国とするためのサービスを提供します。また、「大衆による起業、万民によるイノベーション」（訳者注：中国政府による経済発展のためのスローガンの1つ）の目標を実現するためのサポートを行い、国家図書館を、国家の立法・政策決定および科学技術のイノベーションを支援する新型シンクタンクとしての役割を担える機関にします。

5. 公共文化サービス機能を高め、学習型社会を築いて国民の読書活動を推進させるためのサービスとサポートを提供します。

社会教育サービスシステムをさらに充実させ、全国民の読書活動を推進し、『中華優秀伝統文化百部経典』の編纂プロジェクトや、「国家図書館公開講座」、「文津図書賞」、「4.23 世界読書デー」などの活動を重点的に実施します。また、典籍博物館と図書館のさらなる融合的発展を模索し、典籍博物館の資源を学校教育で有効活用する取組を推進します。

6. 現代情報技術の研究と応用を推進し、電子図書館の構築レベルとサービスをさらに向上させます。

ビッグデータ、クラウドコンピューティング、モノのインターネットなどの新技術を利用し、電子図書館の一体型ネットワーク構築を推進します。また、利用者のニーズに応える形でデジタル資源の統合構築、集中提示、統一管理を強化します。そして、メディアサービスを強化し、「インターネットプラス」（訳者注：最新の情報通信技術と現代産業の融合を目指す中国政府の方針）の考え方により、電子図書館サービスのアップグレードを推進します。

7. 業界における模範・先導的な役割を発揮し、近代的な公共文化サービスシステムの構築を推進します。

各種図書館や公共文化機関との連携・協力を強化し、近代的な公共文化サービスシステムの

構築を共同で進めます。全国図書館発展研究センターとしての役割を十分に発揮し、『公共図書館法』の立法を支える研究など、政策の研究や標準規範の策定を行っていきます。また、積極的に業界組織の発展をサポートし、政府から移譲される役割に即した業務を行います。

8. 国際的な交流・提携を積極的に展開し、国際的影響力をさらに強めます。

国家図書館は、国家を代表して関係する対外文化協定を積極的に履行し、対外文化交流の役割を果たし、関係する国際組織や業界組織の活動に参加し、国外の図書館との提携分野や協力範囲を絶えず拡大していきます。「一帯一路」戦略に合わせて、シルクロード図書館連盟やシルクロード電子図書館の設立計画を進め、シルクロード図書館館長フォーラムの開催を企画し、文化部の海外中国文化センター設置に向けてデジタル資源やサービスの面でサポートしていきます。

中国国家図書館は、日本国立国会図書館との協力を深めて新時代の図書館構築の経験と情報を共有し、双方の協力を促進して共に両国の文化の交流と伝達を進めていくことを願っています。